

連載 プロマネの現場から 第 154 回 大連の魅力

蒼海憲治(大手 SI 企業・上海現地法人・技術総監)

上海に赴任してから、月に1～2度のペースで、分公司のある大連に行っていますが、日本から出張した時から数えて、昨年末、ちょうど大連訪問回数が100回目になりました。分公司のメンバーだけでなく、これまで長く付き合ってきた皆さんとの懇親会は記憶に残る記念日になりました。

私事になり恐縮ですが、私が初めて大連を訪問したのは2004年になります。2000年前後から社内でのオフショア活用は始まっていたのですが、当時所属していた金融部門においては、特にメガバンク向けであったため、セキュリティ優先によりオフショア活用がまだ始まっていませんでした。そのため、2004年から2005年にかけて、オフショア開発の試行&委託・受託実行計画書等のプロセスの整備を実施しました。その後、2006年から2016年まで、担当プロジェクトでのオフショア開発の委託を実施しました。

リーマンショック後の2011年～2013年は国内パートナーメンバーの雇用を優先するため一時中断することもありましたが、その期間を除き、50人月程度の案件から3000人月の大規模オフショアの開発を継続して委託していました。その間、毎月、開発開始に先立っての事前説明、その後の実行中のフォローを行うため、大連訪問を行いました。その際、毎回、中堅・若手層を順番に帯同し、経験を積んでもらうようにしていました。

上海に赴任後の2017年からは、上海から大連へ、マネジメント力強化、個別案件の提案や実行フォロー等を行うために通っています。

一昔前であれば「アカシア」で有名であり、また国際貿易港を持つ「北の香港」とも呼ばれる大連ですが、今回は、この大連について紹介します。

大連は、日本の仙台市や米国のサンフランシスコと同じ緯度に位置し、成田から大連まで約3時間、関空から大連まで約2.5時間のフライトで着くことができます。大連は中国東北三省（黒龍江省、吉林省、遼寧省）の最も南の遼寧省の中でも、さらに最南端の遼東半島に位置している、三方を海に囲まれた美しい海辺の都市です。新潟県と同じ面積に、約600万人が暮らしています。

1. 大連の歴史

歴史的に、ロシアと日本の統治の名残りが残っています。小さな漁村であった大連の都市としての歴史は、ロシアが遼東半島南部を租借し、商業拠点とした 1898 年に始まります。ロシア語で「遠方」という意味の「ダリーニ」と名付けられました。

日露戦争後の 1905 年（明治 38 年）、ポーツマス条約で、日本がロシアから租借権を譲渡されます。この時、古地図に見られた中国語の地名「大連湾」から採った「大連」に改称されました。

1945 年（昭和 20 年）、ソ連の対日参戦と日本の降伏により、大連市はソ連軍に占領され、中華民国時代は、ソ連の管理下に置かれました。その後、中華人民共和国がソ連と締結した中ソ友好同盟相互援助条約の付属協定に基づき、1955 年（昭和 30 年）に中華人民共和国に返還され、今日にいたります。改革開放後の 1984 年、沿岸開放都市に指定され、大連経済技術開発区が建設され、多くの外資系企業が進出しています。

現在は、中国東北の玄関口として、政治の北京、商業の上海に対して、中国有数の国際文化都市として、アカシア祭、国際ファッション祭、国際ビール祭、国際マラソン大会などが開催されています。

特に注目すべきは、世界経済フォーラムが主催する国際会議は、毎年 1 月末に、スイスのダボスで開かれるダボス会議が有名ですが、この冬のダボス会議に対して、2007 年より、毎年夏、中国で夏季ダボス会議が、大連と天津で交互に行われています。

2. 大連の経済と日系企業

新型コロナ以前の指標になりますが、2018 年度の遼寧省の域内総生産は、25,315 億元＝約 40 兆円で、東北三省全体の約 4 割を占め、全 31 省・直轄市、自治区の中では第 14 位になります。そのうち大連は、7,669 億元＝約 12 兆円で、遼寧省の約 3 割を占めています。東北地区は中国の他地域と比べ、重厚長大な産業が多いため、長年、不況でしたが、元気を取り戻しつつあります。

大連には、24 の大学があり、約 30 万人の大学生がいます。研究開発や人材育成に対する市の優遇施策は厚く、市・学校・企業が一体となって人材育成に取り組んでいます。ただし、ソフトウェアのパートナー社の幹部からは、「優秀な学生の多くが大連を含む東北地区で就職せず、北京や上海・深圳に出て行ってしまおう」という声を耳にすることが多くなっています。

大連経済技術開発区、大連ハイテク産業開発区を中心に、約 1 万 3 千社の外資企業が進出しています。

大連ハイテク産業開発区は、いち早く対外開放されたエリアであり、大連ソフトウェアパーク、ソフトウェア及び情報サービス産業エリア、デジタル・生命テクノロジー産業エリアから構成され、ソフトウェア開発、情報サービス、バイオエンジニアリング及び集積

回路等の産業が特に発展している。バイオテクノロジー産業には70社余りの製薬会社が進出し、光通信産業パークには、集積回路企業が集中しています。

また、自動車産業の基盤整備が市政府主導で進められており、自動車メーカー及び自動車部品メーカーが数多く進出しています。自動車産業は裾野が広く、IT や物流等、様々な業種に波及効果を与えています。

大連に進出している日系企業の拠点数は、上海が1万社に比べれば少ないものの、大連は1700社に上っており、在留邦人も6千人以上います。また、そのうちの半数の日系企業が大連日本商工会の会員企業となっており、約14万人以上の中国人社員が働いているといわれています。

3. 大連 IT 事情

- ・大連ソフトウェアパーク（中国語：大連软件园、略称：DLSP）。

大連国家ソフトウェアパークは、中国に11か所ある「国家ソフトウェア産業基地」の1つであり、また「ソフトウェア輸出基地」の1つになっています。その中でも、ここは中国における29の国家ソフトウェアパークの中のモデルパーク「ソフトウェア産業模範都市」となっています。進出している企業数は約400社に及び、そのうち「フォーチュン」誌のグローバル・トップ500企業が32社を占めています。

1990年代前半には、海外からのソフトウェアのオフショア開発も始まり、元大連市コンピューターセンターであったDHC（大連華信）やHisoft（大連海輝）など、大連地元企業も、この大連高新技术園区に設立されました。NTTデータ、NEC、日立ソフト、NRI、NSSOLなど多くのSIベンダーが、アプリケーション・ソフト開発の委託を行なっています。

1990年代後半には、大連ハイテクゾーンのある西郊外に、大連ソフトウェアパーク（総面積3平方キロ）が、1998年に設立されました。ここは海に面し、残りの三方が山に囲まれた起伏に富んだところにあり、大連理工大学、東北財経大学などがある学園研究地区になっています。

DHCやニューソフト（東軟グループ）などは、各々1万人余の開発メンバーを収容できる巨大なオフィスビルを構えています。

- ・大連 IT クラブ

当会は、2002年に発足しましたが、その趣旨は「大連市において IT 関連の業務に携わっている者、あるいは IT 関連の業務に強い関心を持っている者が定期的集まり、IT 関連の情報交換の場を設け、将来、先進的情報を発表する IT 学会活動にまで発展させるべく活動を続け」とのことで、2～3月に一度のペースで、DLSP 内の会議室で、セミナーが開催されています。

2020年10月22日には、第100回目の大連 IT クラブ例会がオンラインセミナーで開催されています。

例会には常に30～50人ほどが参加していますが、例会そのものは無料で、その後の日式レストランでの懇親会が100円で参加できます。「企業グループという縦割りの世界だけでなく、横のつながりをつくって情報交換をしようと、中国・大連市の IT 企業を中心に自由に IT ビジネスの情報交換をする同好会」という趣旨の通り、日本なら競合他社との交流機会はほぼなかったのですが、中国においては、同じ苦勞をしているため、協業できる仲間の意識があるのが面白いところです。

4. 大連の良いところ

大連の良いところは、日本からの物理的・心理的な近さにあると思います。飛行機で3時間ほどの距離にある近さだけでなく、日本語や日本文化を理解している人材がいることによる心理的な近さが大きいと思います。そして、駐在員の方から聞くのは、上海同様、便利で安全、生活がしやすい、ということです。

大連の代表的な良いところを3つ紹介したいと思います。

(1) 日本語人材の多さ

大連には、日本語を話せる人材が非常に多く住んでおり、日本語学習者は20万人います。たとえば、「人口100万人あたりの日本語能力テスト1級受験者数」では、上海の371人に対し、大連は889人と2倍以上になっており、中国の中で第1位となっています。

ソフトウェア産業振興のためには、コンピューターのハード・ソフトに精通した人材が欠かせません。それと同時に、日本とのオフショア開発を円滑に行うためには、日本語能力が必要となります。

そのため、大連には、大連理工大学、大連交通大学、大連海事大学や IT 関係の専門コースを設置している高等教育機関が数多くあります。それらの大学においては、専攻により、最初の一年間を日本語学習に当てています。

特徴的なのは、1963年設立の大連外国語学院は「中国における日本語教育の中心」として位置付けられていますが、その中には、「日本語3年履修+IT2年履修」というユニークなコースが設けられています。

通訳だけでなく、日本語の使用が可能な会計税務事務所、弁護士事務所やコンサルティング会社も多いため、日本企業が新たに進出しようとした場合、中国の他都市と比べてハードルが低くなっています。

2012年秋には中国全土で激しい反日運動が発生しましたが、その際、大連では反日デモは起こらず、日系企業への影響は非常に軽微でした。それは、日本の文化や習慣、日本人の考え方など日本への理解の深い市民が多かったことが、その大きな理由と思われる。

(2) 東北人の包容力

大連の歴史が始まったのは、1898年であり、120年余であるため、もともとの地元出身者は少なく、他の東北地域や山東半島から大勢の人が移住した結果、現在の大連となっています。

このような歴史の背景もあり、大連人は、中国の他の地域よりも外国人に対してとても包容力があり、受け入れやすいのが特徴です。このため、外国人にはとても住みやすい場所と評判も良くなっています。

現地社員の定着率は、上海と比較すると圧倒的に高く、人間関係が良い意味で濃いような気がします。

大連を含む、東北人は、寒冷地域に住んでおり、忍耐強くて裏表がないといわれています。中国の他の沿岸地域と比べると、計算高くなく、純朴さが際立っています。この特徴は、大連からさらに北の瀋陽、長春、哈爾濱に行くほど、顕著な気がしています。そのため、一度彼らの人柄を知ると、日本からの出張者の多くが、リピーターになります。

(3) 食べ物の美味しさ

なによりも日本人が大連で過ごしやすい理由は、日本人の口に合う新鮮な海鮮を始めとする大連料理の美味しさにあります。

・水餃子

昼食に食べる人が多いのは、東北地方の伝統的な料理である餃子になります。餃子というと、日本では焼き餃子になりますが、中国での餃子は、水餃子（蒸し餃子）になります。餡には、豚肉だけでなく、魚肉を使った水餃子を黒酢で食べています。

・海鮮料理

一般的に中国では、海の魚を食べる習慣はありません。しかし、大連は三方を綺麗な海に囲まれた街のため、豊富な海産物が楽しめます。日本なら高級魚のヒラメやアワビの刺身の他、生牡蠣、生ウニ、ホタテ、渡り蟹、イセエビ、シャコなど、種類も多く新鮮です。特に、大連で最も有名なのは生ウニです。大ぶりの生ウニに醤油をかけ、スプーンですくって食べます。生臭くなく、クリーミーな味が美味しいです。

・子羊の丸焼き

羊肉の串焼きは、普段の夕食で食べることが多いのです。しかし、プロジェクトでの慰労会等、ここ一番のイベントの際、子羊の丸焼きを食べにいきます。

子羊の丸焼きは、本来新疆料理の一つですが、いまは中国の主要都市で食べることができます。皮や内臓を取り除いた子羊を丸々一頭、長い棍棒に固定して焼き上げた肉を、一匹当たり10名余のメンバーで、手づかみで食べます。

・海腸（ハイチャン）

これは好物ではなく、いまだに苦手な食材の一つです。

大連地元料理の一つで、ニラと一緒に炒め物にしたり、茹でて和え物にして食べられています。味そのものは、イカのような味で悪くはないのですが、その正体を知るとびっくりします。韓国では、ユムシと呼ばれる、巨大なミミズのようなもので、初めての出張者に必ず食べてもらって、その後の反応を楽しんでいます。

・蚕の串焼き

大連の庶民の食べ物の一つです。

これも好物ではありませんが、二次会や三次会での串焼き屋さんでの定番です。羊肉の串焼きの前後で、決まって登場します。串焼きにして、中身だけを食べます。

・白酒（バイジョウ、パイチュウ）

コーリャン（高粱）を主に、トウモロコシや黍（キビ）、麦などの穀物を原料とする蒸溜酒です。アルコール度数が50度以上あり、「カンペイ」の掛け声とともに、一気飲みするのが特徴です。白酒は、茅台酒（マオタイ）で有名な貴州など、中国全土で作られています。上海に赴任するまでは、白酒は大連の特産品と勘違いしていました。

5. 大連の見どころ

(1) 大連駅

大連駅の駅舎は、日本の統治下にあった1937年（昭和12年）に、南満州鉄道の太田宗太郎の設計により建てられています。そのため、大連駅は上野駅に似ているといわれています。

（2）路面電車

大連市内には、路面電車が走っています。かつて日本で活躍していた中古の路面電車がいまも現役で走り続けています。そのため、街中を散策中に、路面電車をみかけると懐かしい気持ちになります。

（3）中山広場

中山広場は、日本の統治時代には大広場と呼ばれた公園で、直径213メートルのこの広場を中心に、市中心部の10本の道路が放射線状に伸びています。この広場の周りにはその当時建てられた10棟の欧風建築が残っています。その中でも、大連賓館（大連ヤマトホテル）、旧横浜正金銀行大連支店が有名ですが、現在も、政府の機関や金融機関として利用されています。

（4）星海広場

大連市内から西に車で15分ほど走ったところに、総面積110万平方メートルの東洋一大きな公園、星海広場があります。星海広場という名前の由来は、上空から見ると星形に見えるようにデザインされているためです。南側は海に面し、遊園地があり、市民の憩いの場所となっています。東側には小高い山があり、シンデレラ城のような豪華な建物のホテル（ザ・キャッスル・ホテル；大連城堡豪華精選酒店）があります。このホテルから見る夜景は、とても美しいです。

（5）旧ロシア人街・ロシア風情街

大連駅の北側に位置するロシア統治時代の行政区跡地は、当時多くのロシア人が住み、ロシア風の建物が多く残っていることから「旧ロシア人街」「ロシア風情街」と呼ばれています。全長約400メートルの中に、観光・ショッピングができる店に、多くの露店も出ていて、ロシア情緒を楽しむことができます。ただし、現在はロシア人ではなく、中国の人が営業しています。

個人的には、この中の珈琲専門店で、モーニングコーヒーを飲みながら、店主と会話するのが、大連出張の楽しみの一つになっています。

私と大連との付き合いは、オフショア開発の委託から、ソリューションの創出・構築へと変わってきていますが、引き続き訪問したいと思っています。